

高冷地におけるカラー培養球根の養成

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

花き－カラー－栽培

2 担当者名

大竹真紀、長浜友佳

3 要旨

本県の畑地性カラーは、夏秋期出荷の作型が多く、高温条件が球根の肥大を左右している。カラーの県育成系統において、組織培養により生産した2g程度の培養球根を切り花用球根(30g以上)に早期に養成するため、夏期冷涼な猪苗代町で養成栽培をした結果、3系統ともに1年で60g以上の切り花用球根が得られた。

- (1) 猪苗代町(標高526m)で切り花栽培に準じて培養球の養成栽培を行った(図1)。
- (2) 耕種概要は、30%遮光したパイプハウスに5月15日に定植し、株間10cm×条間20cm、2条植えとし、ワラマルチを行った。施肥量はN-P₂O₅-K₂O:1-1-1(kg/a)を全量基肥とした。
- (3) 定植時(5月15日)に2g程度であった培養球根が、掘り上げ時(10月23日)には3系統ともに60g以上に肥大した(表1)。
- (4) 生存球率の違いは、軟腐病等の腐敗によるものであった(表1)。

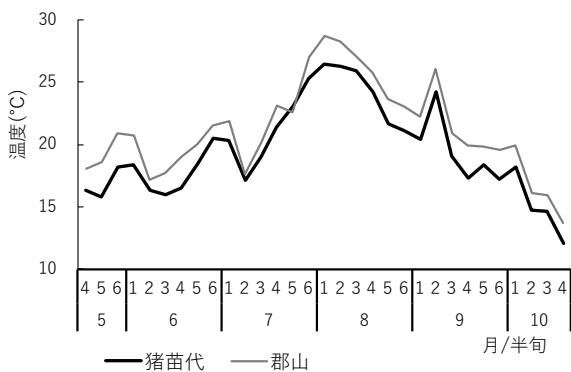


図1 栽培地の半旬別平均気温の経過
(2019年アメダス値)

表1 県育成系統の培養球根の肥大

系統名	定植時の培養		養成後の球根 ¹⁾	
	球根重(g)		球根重 ²⁾ (g)	生存球率 ³⁾ (%)
福島1号	2.3		83.0 ± 13.8	90
福島2号	2.5		79.3 ± 15.5	47
福島3号	2.3		63.8 ± 7.5	67
B E B	1.9		51.5 ± 15.3	80

B E Bはブラックアイドビューティ。±の右記は標準偏差。
2019年5月15日定植。栽培地：猪苗代町。
1) 2019年10月23日掘り上げ、1ヶ月間風乾後に調査。
2) 生存球の球根重量。
3) 生存球率：腐敗程度が3割以下のものの割合。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和元年度～令和2年度
- (2) 研究課題名 会津地域の特色を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立
(福島県とJAグループ福島による福島県産農産物競争力強化共同事業)

5 主な参考文献・資料

- (1) 大竹真紀, 畑地性カラー「クリスタルブラッシュ」の夏秋期栽培における花芽形成と塊茎の発達, 福島県農業総合センター研究報告, 8, p.47-58, 2016.